

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0472300052		
法人名	社会福祉法人あぶくま会		
事業所名	仙南ジェロントピア高齢者グループホームリリーハイム		
所在地	宮城県伊具郡丸森町舘矢間山田字市子沢1		
自己評価作成日	平成23年7月13日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://yell.hello-net.info/kouhyou/">http://yell.hello-net.info/kouhyou/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成23年9月1日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

豊かな自然環境の中、入居者が自分のペースで穏やかに生活できる様に支援しています。家庭的な雰囲気です「自由に、のんびり、一緒に、楽しく」過ごしていただけるよう職員間で話し合い、創意工夫し入居者の安心できる場所作りにつとめています。また、各入居者が出来る範囲で食事の準備や後片付け、掃除、洗濯など身の回りの事をさせていただくと共に畑作りなどでは職員が教えていただき畑の手入れ、収穫を通し「入居者と職員」が一緒に行った喜びを感じて貰えるようにつとめています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 特別養護老人ホーム、デイサービス事業所とともに当初町が福祉ゾーンとして郊外の高台に建設・運営後、民間に全面移管されたグループホームであり、避難路を兼ねたウッドデッキから街中心部が見下ろせ、桜の季節には庭先でお花見ができるなど自然に恵まれ、広い敷地内で日常の散歩が楽しめる環境にある。
2. .1ユニット、9名という家庭的な雰囲気の中で、職員は入居者が自宅のように、その人らしく落ち着いて暮らし、自分ができることを行えるよう支援し、感謝の言葉がけを行っている。
3. 管理者が諸課題の検討に職員と共に取り組みたいと話しており、期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

2 自己評価および外部評価結果(事業所名 仙南ジェロントピア高齢者グループホームリリーハイム)「ユニット名

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に運営理念をふまえ介護にあたるよう職員間で実践に繋げるよう話し合っている。	3年前、町から移管時に見直しを行った理念の「一人ひとりを尊重した、安全・安心のある暮らし」の実践に努めている。地域とのつながりも深めるような理念の見直しを管理者、職員で行っていきと話しており期待したい。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設立地場所が周辺と接点がなく思うように交流が計れない。個々でお茶会参加している入居者あり。	花壇コンクールなど町内イベントに参加している。周辺に民家が近く近隣との交流には厳しい環境の中、ふれあいサロンへの参加支援や昔話ボランティア、散髪ボランティアの受け入れなど地域との交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の開催		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族、地域、行政の意見交換の大事な場になるように会議を進めるようにしている。その場で出た意見を実現出来るように努めている。	入居者、家族、町保健師、区長、民生委員をメンバーに22年度2回開催、避難訓練での消防署連携の必要性など助言を頂いている。サービス向上には、地域と連携した運営が必要であり、回数増など充実をお願いしたい。	立地環境から、より地域との関わり、理解が必要になる。県の指導もあり、2ヶ月周期での年6回開催を実施して頂きたい。また、テーマに添った沿った方の参加も随時呼びかけて頂きたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	あまり密な連絡関係は築けておらず、こちら側からの協力要請を積極的に働きかけたり、市町村担当者のもとに出向き関係を築く努力が必要と思われる。	今回の外部評価では、町保健福祉課から出席している。スプリンクラー設置など、町の支援姿勢があり、ホーム側から積極的に向かい合っている。理解・支援の働きかけで、より強い協力関係の構築をお願いしたい。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束によって入居者が受ける身体的・精神的弊害について理解し、拘束のないケアを目指している。	身体拘束排除の研修を行い、日常のケアの中での可能性や弊害について話し合い、防止に取り組んでいる。頻繁に外出傾向のある方には、家族へその思いを伝え、協力を得て、安全な暮らしに取り組んでいる。日中は玄関施錠を行わず、見守りなどで対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修等で虐待の防止の意識と理解を深め、常にそのことを念頭に置き業務にあたるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	特別に機会を設けて学んではない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に十分理解してもらえるよう説明し、納得していただけるようにしている。施設への理解をしていただき、又、入居者の方の今までの暮らしやケアの継続が出来るよう情報交換を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常生活の中で入居者本人の求めている事を引き出すようにし、出来るだけ不満を解消するように努めている。	日常の細かい入居者の思いは日々の寄り添いの中で、家族の意見、要望は来訪時や運営推進会議で把握し、要因を検討、運営への反映に努めている。直近では、煙草喫煙場所について話し合い、解決を図っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常の業務中のも気付いて問題点や意見を聞き早急に対応するようにしている。会議等では日々見落とし点等について話し合いより良いケアが出来るよう努めている。	日々のケアの中での意見把握と月1回定期開催の全体会議で話し合い、運営、サービスの質向上へ取り組んでいる。退職者が出る中、職員にストレスがかからず、生き生きさを回復する工夫をしたいと管理者は話している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考査制度への反映、個人面接等で各職員の意見を聞くことに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	昨年よりは研修会参加しているが、まだまだ参加回数不足。研修会参加者から他職員への研修など充実をはかりたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ほとんど外部同業者、事業所との交流機会がない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人に入所前施設見学等に来ていただいているが、なかなか初期段階で本人からの要望は少なく、大半はご家族の意見を介してご本人との信頼関係構築に反映させている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	聞き取り時点で良く話を聞き、ご家族が何を施設に要望しているのか、施設側がどういった事に対応出来るのか説明させていただいている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケースによってはケアマネージャー等と相談し話しを進め、必要に応じたサービスを説明させていただいている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常的に各入居者の出来る事はしていただき、出来ない所は職員と共にやっている。していただいた際は感謝の言葉、労いの言葉を忘れない様にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	各入居者の日頃の状態を詳しく家族に報告し現在の状態を分かっていただけよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設への面会等は特に規制なく来ていただいている。外出に関しては家族の方に対応していただくことが多い。	本人、家族から聞き取った生活・職業歴、親戚・友人関係をバックグラウンドアセスメントにまとめ、その関係が続けられるように支援している。デイサービスの知人を訪問したり、趣味の折り紙、畑の世話などこれまでの暮らし継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	なかなか入居者同士のみで関係を築くことは難しい為、職員が間に入りその時々に合わせてクッション的な役割になるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	希望の応じ退所後の相談にあたっている。併設の特養に入所する方が多いので特養職員の相談に応じたり本人の面会に行ったりしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	バックグラウンドアセスメントを利用している。本人からの聞き取り困難な場合は家族等に十分聞き取り行うようにしている。	本人の思い、希望などをありのままの言葉、しぐさなどから、決めつけないよう気をつけながら把握している。入居間もない方にはバックグラウンドアセスメントシートを利用し、1日の過ごし方などが本人本位となるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所申込時から詳しく聞き取りし、出来るだけ把握できる様に努めている。バックグラウンドアセスメントの活用。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所時より出来るだけ細かく行動記録を取り、全職員がその行動状況を把握出来る様にしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個人を尊重し作成しているがより客観的で具体的な介護計画作りを目指して。	本人、家族意向も反映しながら、必要な支援を検討し、具体的なケアの方法・留意事項を作成し、毎月の会議で入居者全員について話し合い、サービス計画に反映している。定期的には6ヶ月毎に家族に説明し、同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を具体的に記述し全職員が情報を共有出来る様にし、気付いた点や改善点については日々のミーティングや会議等で迅速に話し合うようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のニーズに可能な限り対応出来るとうに心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要に応じ協力していただけるように働きかけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は基本的に入居前から通院している医師を継続して受診している。不調の際は併設特養ナースや家族と良く話し合い適切な受診が出来る様に支援している。	入居者全員、入居前かかりつけ医がホーム協力医院である。通院として原則、家族同行であり、暮らしやバイタル状況を家族に伝え、受診結果や助言内容を聞き、本人の記録に記載、共有化して日常のケアに活用している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の特養看護師に状況、状態を報告し指示やアドバイスを受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院によっては家族以外へ情報提供してくれないところもあり、家族を仲介して情報を得ているのがほとんどである。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在終末期の取り組みしておらず、重度化や終末期へ対しての取り組み行えるよう職員間で話し合い周囲に協力していただき考えていきたい。	前年の外部評価で重度化や終末期に向けての方針などについて、関係者や職員間での話し合いの実施をお願いし、目標達成計画にも採りあげて頂いたが、取り組みへの進展がみられない。	重度化や終末期に向けて、ホームでできること、できないことをホーム関係者、職員間で検討し、早い段階からの家族、医師、職員で話し合いを進め、具体的な対応方針作りと関係者の共有化(成文化)をしていただきたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修会等で対応についての訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回併設特養と合同で実施。	特養と合同の総合訓練、単独での夜間想定避難訓練を各1回実施しているが、地域住民や消防団の参加は得られていない。スプリンクラー設置を2月に完了し、避難路のウッドデッキ改修、自家発電設備新設もやっている。	22年3月の国の通知では、運営推進会議での非常災害対策強化の点検項目に「地域における協力者確保」が記されていた。地域の方や消防団員の避難訓練への協力も進めて頂きたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各々の話し方に合わせた声掛けをするように心がけている。各々のバックグラウンドを考慮し対応にあっている。	本人のプライドを尊重し、意向を否定せず、自己決定が行えるように「待ち」の姿勢での対応を心がけている。トイレ等への誘いかけには、同じ目線で、スピードやトーンに気をつけ、プライバシーの確保を図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択の場面は設定しているものの、自己決定というより職員が誘導してしまいがちになっているため、意識して「待つ」という姿勢を大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大体の一日の流れの目安はあるが、基本的には個々のペースに合わせている。食事時間等も体調等、その時々に合わせて臨機応変に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日の服装等は本人に決めて貰っている。髪型等も施設散髪ボラに本人より要望伝えて貰い出来るだけ本人の希望に添う様努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	各々の好みを把握し嫌いなもの等には代替え品等で対応している。又、病気で食事制限ある方多いので工夫出来るだけ楽しみにしていただける様に努めている。	入居者の好みや状態に配慮し、調理を主に担当する職員が献立を作り、週間毎に併設特養の管理栄養士の助言を受けている。お正月、七夕などの行事食、出前、誕生日のケーキなど食事を楽しめる支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各入居者の病気や体調に合わせた支援を心がけている。又、水分や栄養摂取状況が思わしくない方のたいしては職員間で確認し記録に残している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けし口腔ケアに努めている。歯科医の訪問診療あり、その際相談している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	下着やパッド等各々に合わせたり、時間帯に応じて変えたりしストレスの軽減に努めている。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、サインを見逃さないよう注意し、その方に合った誘いかけでトイレでの排泄を支援している。昼、夜の時間帯での布パンツ、リハビリパンツなどの使い分けや声かけで、失禁しないように努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個人の排便状況を把握し、その人に合った下剤の投与に努めている。十分な水分や軽運動で便秘解消に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回入浴日以外、発汗時、汚染時などは臨機応変に対応、時間帯については対応出来かねることあり。	週3日の入浴を原則としている。個々の希望に沿った時間帯での入浴は職員シフトから難しいと話している。入浴を拒みがちの方へ「明日は通院」などの声かけを工夫している。ゆず湯など季節を楽しむことも実施している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の一日の流れを把握しその人に合った休息時間を設定し休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各職員が服薬に関して理解を深める様努めている。又、飲み忘れないよう目配り、確認徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各々の楽しみごとや役割を見だし場面を作るよう努力している。強制的にならないように注意している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個人の消耗品、し好品の購入時に本人にも同行していただいている。遠方への外出に関しては家族に対応していただいている。	自然環境に恵まれた施設内散歩や買い物などの外出支援を行っている。管理者は、外出が少ないと自己評価しており、今後の外出支援増を期待する。ひまわり観賞などデイサービスの車を利用した遠出ドライブを年間4～5回行い、満足度を高めている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望のある入居者はある程度の金額は本人管理していただき、本人管理難しい方については職員が管理している。外出時などに本人持ちの現金で買い物していただいたりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話に関しては特に制限等はしておらず本人の希望に添うようにしている。携帯電話の持ち込みしている入居者も有り。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節や行事に合わせたレイアウトを行うように心がけている。混乱を軽減できる様に工夫している。	木材の見える吹き抜け構造で、廊下各所に天窓があり、自然の陽射しを取り込んでいる。各所にソファが置かれ、落ち着ける場所の確保に配慮している。空調器と加湿器による適温・適湿を行っている。手作りの大型日めくりカレンダーや飾り物で季節が感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間では各々落ち着く場所が有り、過ごしている。作業やその時の入居者の気分に応じて職員が誘導する事もある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各々のそれまで暮らしてきた環境を大事にした居室作りを心がけている。又、混乱の要因になる物などについては家族と話し合い検討している。	ベッドやたんす、三面鏡など家具類は家族に働きかけ、本人が使い慣れたものを持ち込んで頂き、家族と相談しながら自宅に居るような動線になるよう配置し、できるだけ混乱が生じないようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	不必要な戸や設備など外し、入居者が分かり易い環境になるよう工夫している。		